

特集1 2023年「共通テスト」結果速報

☆5教科総合の平均点上昇 高得点者も増加

「数学①・②」とともに易化 平均点大幅上昇↑

一方、「理科②」は今年も波乱 「得点調整」を実施

今年度の大学入学共通テストは、1/14（土）、15（日）の2日間に行われ、本校生も日大と郡山女子大を会場に238名が受験しました。

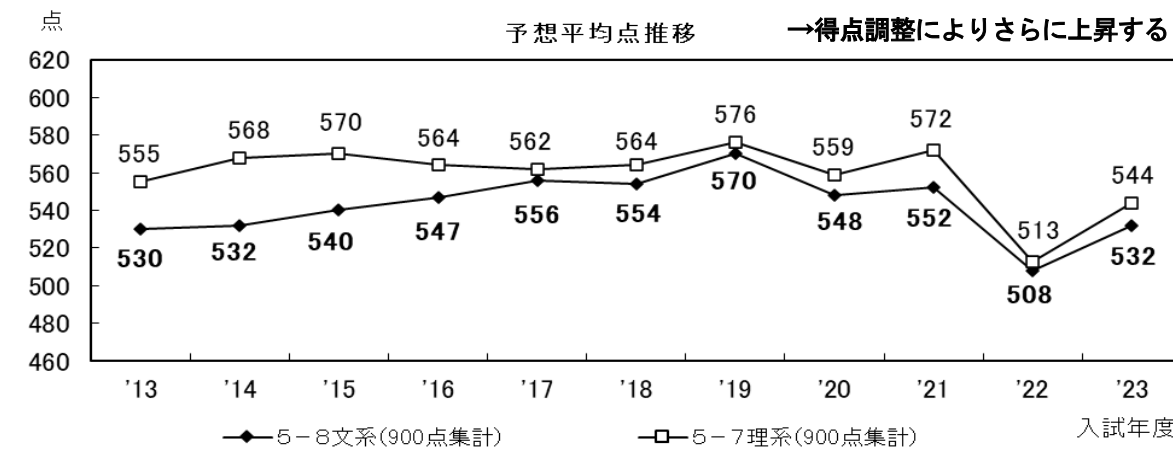
■ **全国平均点の状況（理科②の得点調整前）**

今回は、数学の平均点上昇を受け、5教科総合の平均点は上昇しました。



5教科総合（900点）の全国平均点予想（「ベネッセ・駿台のデータネット」から引用）

・ **文系 532点**（対前年+24点） ・ **理系 544点**（対前年+31点）



■ **全体の出題傾向** 以下は、「河合塾」による問題分析の結果を引用したものです。

- 全体的な出題傾向は昨年から大きな変化はなく、多くの教科で文章や図表、資料など複数のテキストを読み取り解答する出題が目立った。
- 問題文量や素材となる資料が増えたことで、多くの科目で問題ページ数が増えた。
- 「思考力、判断力、表現力」や理解の質を問うだけでなく、限られた時間で多くの情報を処理する能力も評価しようとする傾向は今後も継続すると考えられる。また、過去2年出題されてきた日常生活や学習過程を想定した場面設定も多く見られた。

科目別の状況

- 「英語（リーディング）」「国語」の平均点が下がった一方、昨年大幅に難化した「数学Ⅰ・数学A」「数学Ⅱ・数学B」は2科目合計で大幅に上昇した。「数学Ⅰ・A」は昨年と比べて思考力を要する

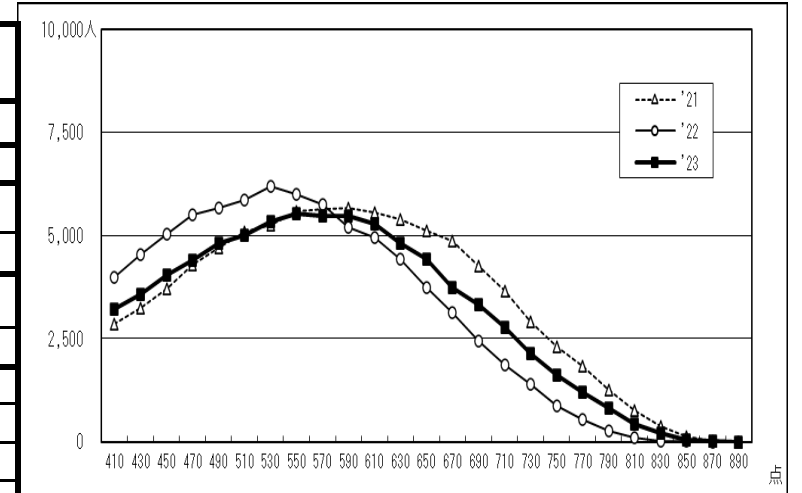
問題が減り取り組みやすい構成であったこと、「数学Ⅱ・B」は問題の意図が明確で計算量も減ったことなどが平均点アップにつながったようだ。

- 「理科②」では、「生物」の平均点が前年からさらに10点ダウンし、現行課程に移行した2015年度以降、最も低い平均点となった。理科②では、「物理」と「生物」の平均点差が20点以上開いたため、「得点調整」が行われた（生物と化学に得点に応じて加点がされた）。

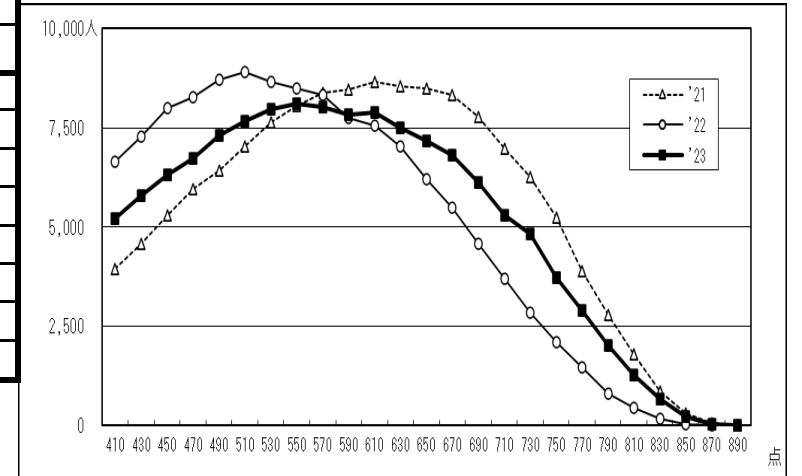
図表は「ベネッセ・駿台データネット」より ・5—8文系（900点集計）

		平均点	前年差
国語		106	-4.3
数学	数学Ⅰ・A	56	+18.0
	数学Ⅱ・B	61	+17.9
英語	リーディング	54	-7.8
	リスニング	63	+3.6
地歴・公民	世界史B	59	-6.8
	日本史B	60	+7.2
	地理B	61	+2.0
	倫理	59	-4.3
	政治・経済	51	-5.8
理科	現代社会	60	-0.8
	倫理 政治・経済	61	-8.7
	物理基礎	28	-2.4
	化学基礎	29	+1.3
	生物基礎	25	+1.1
	地学基礎	35	-0.5
	物理	63	+2.3
化学	49	+1.4	
生物	39	-9.8	
地学	50	-2.7	

* 生物、化学は得点調整前の数値

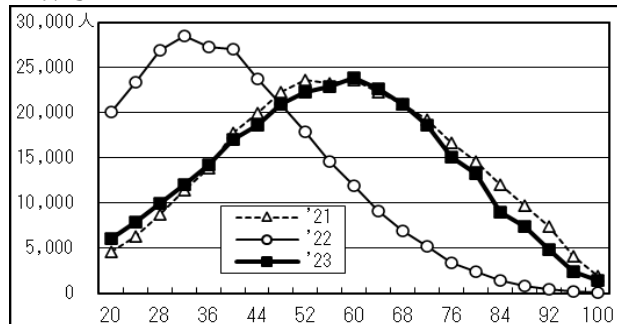


・5—7理系（900点集計）（得点調整前）

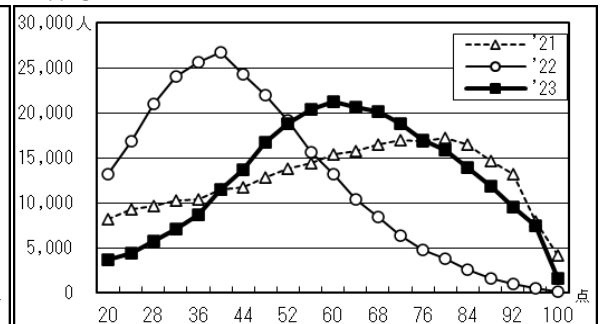


- 数学は昨年より大幅に上昇した。

・ **数学Ⅰ・A**



・ **数学Ⅱ・B**

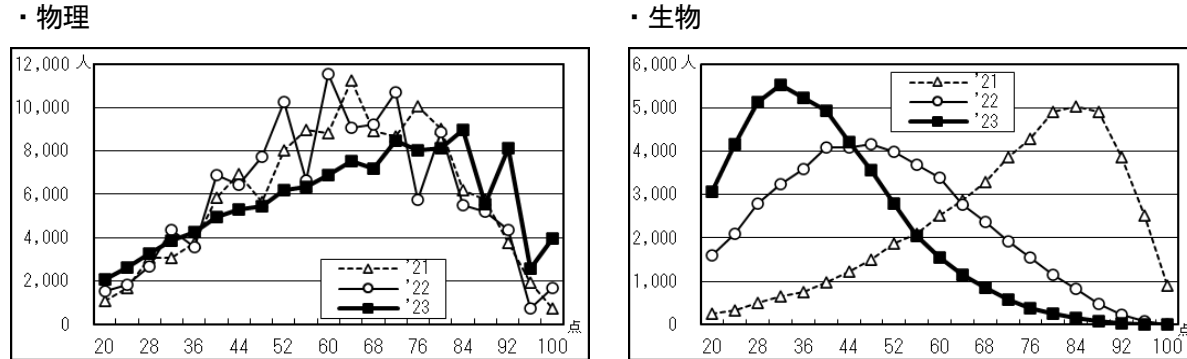


■理・社における「得点調整」とは？ 過去に何度も実施されている

共通テストの本試験において、次の科目間で、原則として20点以上の平均点差が生じ、これが試験問題の難易差に基づくものと認められる場合は、得点調整が行われます。一昨年は、公民と理科②で得点調整が行われました。1, 2年生もあらかじめ分かかっておいてほしいと思います。

- 対象科目 ① 地理歴史の「世界史B」「日本史B」「地理B」の間
 ② 公民の「現代社会」「倫理」「政治・経済」の間
 ③ 理科②の「物理」「化学」「生物」「地学」の間

今回は「物理」と「生物」の得点差(約25点)によって実施されました。得点に応じて、「生物」に最大12点、「化学」に最大7点が加算され、平均点差を15点になるよう調整されました。



特集2 3年生になる前に、『国公立大入試』のしくみを学べ

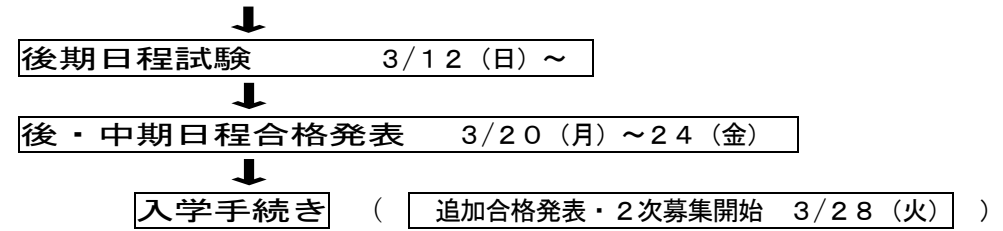
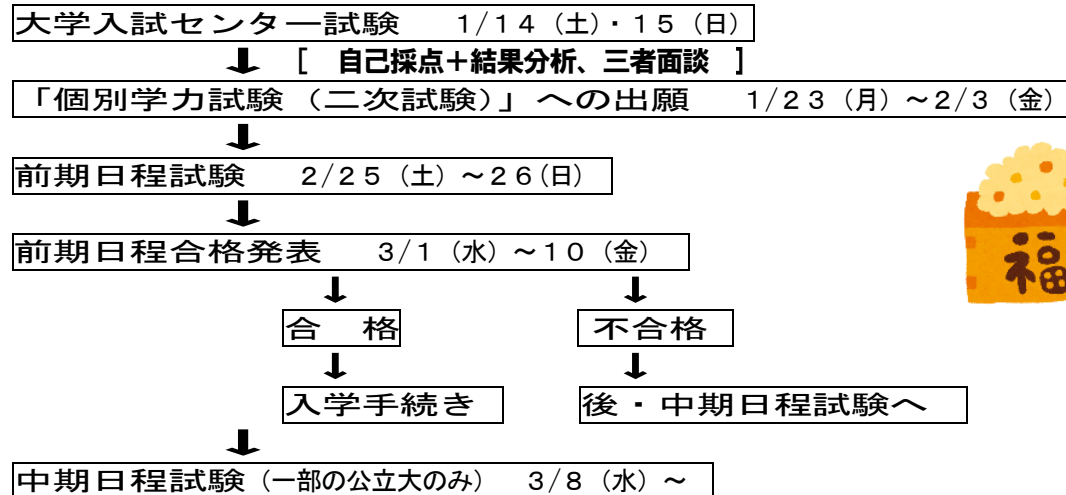
決戦の舞台は「二次試験(個別学力試験)」へ!

共通テストが終わり、国公立大入試は最大の山場である個別学力試験(「二次試験」)へと進みます。まず、2/3(金)までに各大学へ出願し、2/25(土)からは「前期日程試験」が行われます。今年は共通テストの平均点が高く、混戦模様です。「二次試験」の結果が勝敗を分けることでしょう。

■国公立大二次試験のしくみ Q&A

Q1 今年(2023年)の国公立大入試はどのような日程ですか?

A1 国公立大入試は以下の日程で行われています。 * 共通テストの願書提出は10月上旬に終了



Q2 国公立大志望者は、「共通テスト」を必ず受けなければいけないのですか?

A2 国公立大学志望の場合、各大学が独自に実施する個別学力試験(通称「二次試験」)の前に、一次試験として、「大学入学共通テスト」を受験します。**多くの国公立大学の場合、「5教科7科目」以上を受験しなければいけません。**また、**受験科目は、二次試験に出願する大学が指定する科目から選択しなければいけません。**さらに、**各科目の配点は大学によって異なり(これを「傾斜配点」)、英語のリーディングとリスニングの配点比率も大学により異なります。**

* 郡山東高校では、国公立、私立を問わず、大学・短大の「学校推薦型選抜」を希望者は、その応募条件の1つとして、「共通テストを必ず受験すること(その大学の一般選抜で課される科目)」を課しています。一般選抜合格者に負けない実力を付けてから入学してほしいためです。

Q3 国公立大の個別学力試験(「二次試験」)は、どのように出願するのですか?

A3 共通テストの翌日に「自己採点」を行い、結果をベネッセ・駿台予備校や河合塾に依頼し志望大学の合否判定をします。その後、その判定結果とこれまでの模試の成績や各大学の二次試験の科目や配点比などを基に、個人面談を行いながら出願先を検討します。そして、**二次試験の前期日程・後期日程・(中期日程)で受験する大学を1校ずつ決定し、全日程を同時に**出願します。**ただし、出願後の変更はできません。**また、新潟県立大や国際教養大など、一部の公立大学では、前・中・後期の日程に属していない「**独自日程**」を実施していて、他の日程と併願が可能です。

Q4 「国公立大の合否」はどのようにして決まるのですか?

A4 **一次試験である共通テストの点数と、大学独自の二次試験の点数の合計によって、合否が判定されます。**それゆえ、共通テストが悪くても、二次試験の出来しだいでは逆転合格することも可能です。ただし、これは二次試験の配点の割合が大きい大学で、かつ、高い学力を有している人に限りますから、**なるべく上位の判定が出ている大学に出願するのが基本です。**

Q5 国公立大の「個別学力試験(「二次試験」)」は、どのような試験ですか?

A5 **記述式試験**が一般的です。受験科目と配点は大学により大きく異なります。出題科目は、**理系学部の場合、数学、理科、英語、文系学部の場合、国語、英語、社会**が中心です。一般的に、**東北大などの難関大では、受験科目数も多く、二次試験の配点比率も大きくなります。**また、福島大や県立医科大の看護学部のように、「**小論文**」や「**総合問題(現代文読解、英文読解、データ読解等を含む)**」を課す大学も増えています。

■ 受験科目・配点比の例 ()の数は受験科目数

福島大 経済経営学類(前期)の場合

共テ:1100点 (国200点 地・公(2)200点 数①②200点 理(1)100点 英200点)

*「地・公2科目」と「数2科目」の合計点を比較して高い方を2倍して400点とする。

二次:400点 (「小論文」または「英語」の選択 400点)